

施設整備(変更)計画書

(記入例)

アイランドシティ環境配慮指針に基づき施設整備(変更)計画書を届出します。この計画書及び添付図書に記載の事項は、事実と相違ありません。

年 月 日

(あて先)福岡市長

申請者住所(法人にあつては所在地)

申請者氏名(法人にあつては法人名及び代表者氏名)

<<施設概要>>

【敷地の地名地番】

【施設の名称】 ○○ 1番館

【主要用途】 共同住宅(分譲)

【延べ面積(建物全体)】届出部分: 8,000 m²

内訳: m²

届出以外の部分: 全体 40,000 m² 1番館 8,000 m² 2番館 8,500 m²

2番館 7,500 m² 4番館 8,000 m²

合計: 8,000 m²

【申請棟数】 1棟(届出以外 3棟)

【建築物の構造】 (14)階

鉄筋コンクリート造 鉄骨鉄筋コンクリート造 鉄骨造 その他()

【工事の予定】 工事着手予定 ○年 ○月 ○日

工事完了予定 ○年 ○月 ○日

<<建築物及びその敷地に関する事項>>

【工事種別】 新築 増築 改築 (該当する種別に×を記す。)

【敷地面積】 (4,000) m² (仮想敷地) 全体敷地面積 (20,000) m²

【内訳：延べ面積】 (届出部分) (届出以外の部分) (小計)

[住宅部分] (6,000) () (6,000) m²

[自動車車庫等部分] (500) () (500) m²

[その他] (1,500) () (1,500) m²

[合計] (8,000) m²

【内訳：水平投影面積】 (届出部分) (届出以外の部分) (小計)

[住宅部分] (1,200) () (1,200) m²

[自動車車庫等部分] (500) () (500) m²

[その他] (1,000) () (1,000) m²

[総計＝敷地面積] (2,700) m²

【緑化面積】 (届出部分) (届出以外) (小計) (緑化率＝小計/敷地面積)

[地表] (5,000) () (5,000) m² (25.0) %

[屋上(立体駐車場含む)] (500) () (500) m² (2.5) %

[壁面(立体駐車場含む)] (500) () (500) m² (2.5) %

[合計] (6,000) m² (30.0) %

* ひとつの敷地に複数棟数の場合は、緑化率を全体で算出してもよい

【環境配慮対策実施状況】

別添(チェックシート)：必要により、実施内容についての説明やカタログ等を添付

【添付図面】

周辺見取り図，施設平面図，各階平面図(窓・換気系統記載)，立断面図，緑化図

【備考】

適合の有無を
○×で記載

[住宅整備：集合住宅] チェックシート

目標像	キーコンセプト	基本的配慮事項	環境配慮対策	実施内容	導入水準	適合有無	備考	
目標1…豊かな自然環境と共生するまちの創造	自然環境との共生	●生き物生息環境の創造	○ビオトープネットワークの形成	○緑地等を整備する場合は、ビオトープネットワークの形成に寄与する緑地を整備する。	3		面積図面	
			○生物多様性に配慮した植生の確保	○緑化にあたっては生物多様性に配慮した植生を確保する。	1		植生等を記載	
		●敷地内緑化の推進	○身近な緑の整備	・垣・柵	○道路、公園及び緑地沿いにおいては生け垣等により緑化する。	1		緑化図
					・外構	○道路、公園及び緑地沿いにおいては緑地空間を確保する。	1	
				・建物等の緑化		○道路、公園及び緑地沿いにおいては、緑の連続性を確保する。	1	
					○屋外に駐車場を整備する場合は、周辺部、仕切り部分等、可能な部分を緑化する。	1		緑化図
			○屋外に駐車場を整備する場合（立体駐車場等を除く）は、駐車面を緑化する。		2		緑化図	
			○屋上や壁面を緑化する。		2		立断面図等	
			●修景・親水空間の形成	○緑地での親水化	○敷地内緑地の整備に当たって、雨水等を利用した親水空間（池、せせらぎ等）を整備する。	2		平面図
					○ベランダやバルコニーは、居住者による緑化が可能な形状とする。	1		平面図
○立体駐車場等を整備する場合は、屋上や壁面を緑化する。	○緑化率は30%以上とする。	○緑化率は30%以上とする。	1			緑化率		
							○緑化率は30%以上とする。	1
目標2…ストップ・ザ・温暖化のまちの創造	省エネルギーの推進	●エネルギー負荷の抑制	○日照・風の流れに配慮した施設整備	○日照や風の流れに配慮した施設配置・形状とする。	1		平面図	
			○高断熱・高気密化	○国土交通省が設定している「住宅に係るエネルギーの使用の合理化に関する建築主の判断の基準」及び「同設計及び施工の指針」（次世代省エネルギー基準）を遵守する。	1		性能評価書を添付	
			○日射調節	・庇、ブラインド、熱の透過性が低い高性能ガラス、パーゴラ等	○基本的対策として確保する。ただし、冷暖房負荷の増大要因とならないよう適切な配置・形状とする。	1		
			○自然採光	・適切な開口部、天窓、側窓、ライトコート等				
			○通風性の確保	・適切な開口部等				
		●エネルギーの効率的利用の推進	○節電システムの導入	・LED等節電型照明、調光システム、省エネ型空調、省エネ型エレベータ、換気装置等	○省エネルギー機器（節電型の機器等）を設置する。	1		機器のカタログ等を添付
			○エネルギー使用量やCO ₂ 排出量の見える化	・見える化システム	○計測したエネルギー消費量やCO ₂ 排出量等を、モニター等で入居者等にわかりやすく表示するシステムを導入する。	1		資料を添付

[住宅整備：集合住宅] チェックシート

目標像	キーコンセプト	基本的配慮事項	環境配慮対策	実施内容	導入水準	適合有無	備考
目標2…ストップ・ザ・温暖化のまちの創造	省エネルギーの推進	●エネルギーの効率的利用の推進	○エネルギー使用量やCO ₂ 排出量の見える化	・見える化システム	○街区等を単位として、計測したエネルギー消費量等のデータを集約化し、省エネアドバイス等、各々の住宅所有者にフィードバックするシステムを構築する。	2	資料を添付
			○省エネルギーコントロール	・家庭エネルギー管理システム(HEMS)	○見える化に加え、家電機器等の省エネコントロールシステムを導入する。	2	資料を添付
			○コージェネレーションシステム	・燃料電池システム、ガスエンジン等	○コージェネレーションシステムを導入する(発電排熱を住棟セントラル給湯(暖房)システム等で利用するもの)。	3	カタログ等を添付(CO ₂ 削減量を含む)
			○高効率給湯器の導入	・高効率給湯器	○潜熱回収型給湯器(エコジョーズ)、自然冷媒ヒートポンプ給湯器(エコキュート)等を導入する(家庭用ガス発電給湯暖房システム(エコウィル)、家庭用燃料電池コージェネレーションシステム(エネファーム)は除く)。	1	カタログ等を添付(CO ₂ 削減量を含む)
			○エネルギーの面的利用		○地域冷暖房システムや建物間熱融通などのエネルギー面的利用システムを導入する。	3	資料を添付
			○AEMS(エリアエネルギーマネジメントシステム)、スマートグリッド		○地域レベルのエネルギーマネジメントシステムや、再生可能エネルギーの集中導入などに対応するスマートグリッド等を導入する。	3	資料を添付
			○ZEH(ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス)		○ZEH(ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス)として建設する。	2	資料を添付
	再生可能エネルギーの利用 [←新エネルギーの利用]	●自然エネルギーの利用推進	○太陽光など未利用自然エネルギーの活用	○外構の照明用電源等として太陽光発電システムを導入する。	1	カタログ等を添付(出力)	
				○太陽光発電システムを建物で利用する。	2	カタログ等を添付(出力)	
				○太陽光発電以外の再生可能エネルギー(太陽熱利用、風力発電等)を利用する。	2	カタログ等を添付(CO ₂ 削減量を含む)	
CO ₂ の固定化	●木材系資材の利用推進	○住宅用建材としての利用	○内装等を木質化する。	1	資料を添付		
目標3…人々と環境にやさしい 交通を取り入れたまちの創造	自転車利用の推進	●自転車利用環境の整備	○駐輪場整備	○十分な広さの駐輪場を確保する。	1	面積, 平面図	
			○自転車通行空間の確保	○住宅整備においては、自転車や歩行者が安全に通行できる空間を確保する。主たる街区道路では、車や歩行者等と分離された自転車走行空間を整備する。また、集合住宅敷地内では自転車の走行速度を抑制するための設備、構造などを導入する。	1	平面図	
	自動車交通の負荷抑制	●次世代自動車等の利用推進	○次世代自動車等が利用できる建築設備的対策の導入	○駐車場等への電気自動車用充電設備を設置する。	2	資料を添付	
			●環境共生型交通システムの導入	○エコ・カーシェアリング等の導入	○次世代自動車を利用したカーシェアリングシステムを導入する。	2	資料を添付

[住宅整備：集合住宅] チェックシート

目標像	キーコンセプト	基本的配慮事項	環境配慮対策	実施内容	導入水準	適合有無	備考
目標4…水や資源を生かすまちの創造	水資源の有効利用	<ul style="list-style-type: none"> ●高度な節水対策の推進 ●雨水の有効利用の推進 	○節水型機器の利用	○使用機器は節水型とする。	1		カタログ等を添付
			○保水の確保(*)	○空地部分は、緑化等により雨水浸透を行う。	1		平面図
				○敷地内等の舗装部分は、透水性舗装等により雨水浸透を行う。	1		平面図
				○地上に駐車場を整備する場合には、緑化や透水性舗装等により雨水浸透を行う。	1		平面図
	○雨水の雑用水利用	○雑用水（散水、洗車等）に雨水を利用する。	2		平面図 貯水槽容量		
	循環型システムの形成	●リサイクル品の利用推進	○建築物、敷地内通路、オープンスペース等への利用	○福岡市グリーン購入ガイドライン「15.公共工事」に示される再生資材を利用する。	1		リサイクル堆肥等を記載
				○リサイクル鋼材等を利用する。	1		品目等を記載
	●ライフサイクルでみた省資源対策の推進	○建設廃棄物の発生抑制	○建設物の長期利用のための高耐久化	○再生利用・再使用が可能な建設資材および工法を選定する。	1		内容等を記載
				○維持管理の容易性、改修・更新への対応性（住宅性能表示制度の維持管理対策等級3相当）を確保する。	1		証明書等を添付
				○躯体の劣化対策（住宅性能表示制度の劣化対策等級3相当）を講じる。	1		証明書等を添付
CASBEE		○CASBEE福岡による評価	○CASBEE福岡Aランクを取得する。	1		証明書等を添付	
			○CASBEE福岡Sランクを取得する。	2		証明書等を添付	
			○延べ面積 5,000㎡以下の建物についてもCASBEE福岡による評価を行い、B+ランク以上を取得する。	3		証明書等を添付	